

第1336回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成27年7月16日 木曜日

開会 9時30分 閉会 11時00分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	奥野 史子
	委 員	秋道 智彌
	委 員	鈴木 晶子
	委 員	星川 茂一
	委 員	高乗 秀明

4 欠席者 なし

5 傍聴者 10人

6 議事の概要

(1) 開会

9時30分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第1335回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

報告1件

イ 報告事項

報 告 平成28年度以降使用の中学校教科書にかかる採択事務の進捗等について

(事務局説明)

○島本学校指導課長

平成28年度から平成31年度まで使用する中学校教科書の採択にかかり、調査研究の進捗状況等について御報告する。

本日は、先日開催した第3回選定委員会の概要、教科書展示会の実施結果、この間寄せられた要望書等について、報告を申し上げた後、各教科の指導主事から、調査結果に基づく、各教科書の特徴等を説明申し上げる。

資料１の第３回教科書選定委員会の会議概要であるが、第３回会議では、第２回会議と同様、各教科の調査研究部会ごとに、調査研究の進捗状況等について、正副委員長および学識者・保護者代表の外部委員に説明がなされ、意見交換・協議が行われた。

第２回会議で、各教科の主な特徴等について説明、質疑応答がされていたが、第３回会議では、より具体的な意見を頂戴した。例えば、選定の観点にある「生涯にわたって学び続ける態度を育む」ために具体的にどのような視点で調査しているのか、資料や文章の出典記載や正確さ、京都に関する題材等の取扱いや効果、情報モラルや情報セキュリティに関する内容、教科書サイズなどについて、この間外部委員も教科書展示会に何度も足をお運びいただくなど熱心に研究をしていただいたこともあり、第２回会議での議論を踏まえ、それぞれ専門とされる分野から実際に教科書を手にとって感じられたことまで、幅広く多岐にわたる視点で意見を頂戴した。

それぞれのご意見を十分に踏まえ、各教科の調査研究部会において、さらに調査研究を進め、今月中には、再度外部委員に確認をいただいたうえで、最終「答申」という形でまとめて、教育長に提出いただく予定である。

資料２をご覧ください。教科書展示会についてである。昨日７月８日で全日程が終了した。この間、説明申し上げているとおり、「開かれた教科書採択」を進める観点から、法定の２会場に加え、ほぼ全市をカバーする計１１会場で開催するとともに、期間も法定の約２倍に設定し（法定期間：６/１９から１４日間）、幅広く保護者や市民の皆様からの御意見を頂戴した。

来場者は計４９９名、意見書は３１７件あった。前回は来場者４８８名、意見書２５６件だったので、いずれも前回を上回っている。

意見書の内容について、１通で複数の視点からご意見されているものもあわせ、内容の件数としては、およそ４３８件であった。内訳としては、およそ９割が、社会科に関するもので、「特定の教科書、具体的には自由社、育鵬社を採択しないほしい」また「その記述や題材資料の内容が歴史認識としておかしいのでは」との内容となっている。反対に１０件ほど、それら特定の教科書を採択すべきとの意見を頂戴している状況である。

その他、他の教科の記述・題材等の内容、例えば、「国語：題材に論語や詩・随筆を取り入れるべき、音楽：和楽器やオーケストラ楽器の紹介がよくなされている」や、文字や写真等のレイアウト「カラーでわかりやすい、よく工夫されている」、教科書展示会のあり方「地域図書館であってよかった、案内表示がわかりにくい」などが主な内容となっている。２枚目以降にすべての意見を付けているので、ご参考いただきたい。

次に、「中学校教科書採択にかかる要望書」についてである。この間、教育委員会事務局へ提出された要望書および郵送で送られてきたはがきを添付している。７月１５日までに、各種団体から要望書が１５通、はがきは１１４通が寄せられており、その内容は展示会の意見書と同様、特定教科書（自由社、育鵬社）の採択を懸念するものがほとんどとなっている。これも資料にすべて添付しているので、ご確認ください。

これら意見書および要望書等は、選定委員でも適宜報告させていただいている。教育委員の先生方にも確認、ご一読いただければと考えている。

それでは、教科ごとに教科書の特徴や傾向等について説明申し上げる。
本日は、全教科の教科書を２セットと、お手元に各教科ごとの教科書の写しを用意している。写しをご覧くださいながら、適宜教科書もお手にとって、お聞きいただければと思う。

なお、本日は、複数教科ずつ区切りながら説明する。例えば、２教科の説明が終わった時点で、

一旦区切らせていただき、質疑応答の時間をとらせていただくなど、全体の時間を見ながら進行していく。

では、各教科の指導主事から、この間の調査研究部会の進捗も含め、説明する。まず国語科および社会科である。

○芦田指導主事【国語科】

国語科について、特に重点として調査研究した効果的な言語活動が設定されているか、古典の学習をどのように工夫しているかの2点を主に説明する。

まず、東京書籍 P98 をご覧いただきたい。説明文を学習した後、その学習を生かし、次のページ P109 で意見文を書くよう配列が工夫されている。P128 をご覧いただきたい。古典の学習の導入に注目すると、猫の話から、次のページ P134 の伊曾保物語へ自然な展開となるよう工夫されている。しかし、中心単元の次のページ P139 竹取物語への系統性については希薄である。

続いて学校図書 P198 をご覧いただきたい。古典学習の後に説明文がきているが、この単元で何かを・伝える、書くなどの言語活動にまで展開できていない。また、学校図書は、3 学年を通じて高校古典への発展を意識した作りになっており、1 年生もやや高度な内容となっている。少し戻ると導入の P170 では、文章のみで説明がなされており、工夫がやや弱く感じる。

次に、三省堂。P32 をご覧いただきたい。説明文の学習の後 P44 で調べたことをレポートにまとめる活動があるが、1 年生の 4 つ目の単元として配置されており、5～6 月の 1 年生にとってはまだ難易度が高いと思われる。次に P100。古典の導入は円滑で、月に関する随筆を、P102 では漫画なども例示しながら導入に使い、P104 の竹取物語へとつなげていく。

教育出版は P34 をご覧いただきたい。説明文の学習から次のページ P42 のフリップを用いた報告という展開は、問題解決的な展開とはなっているが、この時期の 1 年生にはかなり高度であると言える。また、教育出版は古典に関して、古語の韻律にこだわったあつかいが特徴的でしたが、P104 の導入も川柳を用いて、文章のみで導入が図られており、工夫がやや弱く感じる。

最後に光村図書。P118 をご覧いただきたい。記録文の学習の後、次のページ P128 でレポートを学ぶ。時期的なことも、内容の展開も無理がない配列であるといえる。次に P140。まず音読、次のページで月に関する随筆を、P146 ではアニメの一場面なども例示しながら導入に使い、P147 で竹取物語の学習に入る。これも非常に無理のない自然な展開だと言える。

続いて書写。特に重視したのは、国語の教科書との関連、手本として使用するため造本の 2 点。国語の教科書からの引用であるが、東京書籍 東京書籍の P46 をご覧いただきたい。書き込み欄がない。学校図書 学校図書は P38。引用箇所が短い。三省堂は P58-59 をご覧いただきたい。書き込み欄は小さめである。教育出版は P86-91 と豊富であるが、お手本が手書き文字でない、お手本と書き込み欄の行数が異なるなど、使用する上で不便が予想される。光村図書は P48-49。文字色が薄く、なぞり書きに適していることも、書写以外の時間での使用に適していると言える。

最後に教科書サイズについては、現物を見て頂きたいが、5 社の教科書のうち、東京書籍と学校図書は、やや幅広のサイズになっている。これは、お手本として見開きで広げると、生徒の机からはみ出すサイズである。特に道具の多い毛筆の学習において、不都合が予想される。以上で国語の説明を終わる。

○杉村指導主事【社会科】

社会科について、暗記型の教科とのイメージがあるが、それだけではなく、社会的事象について、自ら考え、説明し、表現する言語活動によって社会的な見方やものの考え方を育むことが大切なため、言語活動の工夫・充実について各社の状況をご報告申し上げます。加えて、歴史は「時代の流れを大観させる工夫」、公民は「民主主義の理解に関する工夫」についても、あわせてご報告申し上げます。

まず地理的分野について東京書籍の 70 ページをご覧ください。世界の諸地域の学習について、最後に「言語活動のまとめ」として、多様な学習方法が提示され、言語活動の工夫がされている。次に、教育出版の 80 ページをご覧ください。「学習のまとめと表現」として、基礎基本を活用し、字数制限の中で、考察・表現する言語活動が取り入れられている。帝国書院の 63 ページをご覧ください。3 段階の学習課題とともに、直接記入する欄が設けられるなど充実した言語活動が提案されている。日本文教出版の 57 ページをご覧ください。学習の流れがステップ 1・2 の 2 段階的に設定され、言語活動への展開が行いやすいよう工夫されている。このように、どの社も様々に工夫されているが、基礎基本の定着および活用する力をより確実に身に付けるためには、学習課題を段階的に設定することが効果的ではないかと考えている。

次に歴史的分野について東京書籍の 61 ページをご覧ください。ここでは、各時代のまとめの学習として、時代の特色や変化を考察し、説明する課題が設けられている。次に、教育出版の 50・51 ページをご覧ください。ここでは、資料をもとに自分の言葉で表現する課題など、言語活動の充実が図られている。清水書院の 56 ページをご覧ください。まとめとして穴埋め問題が設定されているが、工夫としてはやや弱いと感じる。帝国書院の 48・49 ページをご覧ください。清水書院と同じ穴埋めだが、説明しよう、話しあってみよう多彩な言語活動が工夫されている。日本文教出版の 56・57 ページをご覧ください。読み取ろう・考えよう・伝えようの 3 つのステップからなる「言語活動コーナー」をはじめ、多彩な言語活動が工夫され、最も充実している教科書と考えている。自由社の 79 ページをご覧ください。時代の特徴を会話風に紹介し、ひとこと作文や意見交換などの言語活動が工夫されているが、他社よりやや弱い感じがする。育鵬社の 62・63 ページをご覧ください。豊富な資料でキャラクターの吹き出しも効果的に使い、豊富な言語活動が工夫されている。学び舎の 54・55 ページをご覧ください。発表や意見交換など、多くの課題が設定されているが、資料が少なく展開の工夫もやや弱い。各社いまご覧いただいた工夫に加え、各時間でもまとめや振り返り活動が設定されており、工夫も様々であるが、展開の工夫や豊富な資料、段階的な導き方などがそれぞれに工夫されていると考えている。

次に各時代の特徴をとらえる工夫について、東京書籍の 20・21 ページをご覧ください。人物画などをたどりながら、概観するとともに、時代の大きな流れやつながりを意識し捉えることができるよう工夫されている。教育出版 6・7 ページをご覧ください。小学校で習った人物と文化財の組み合わせでグループをつくり、時代を大観される工夫がされている。清水書院の 5 ページをご覧ください。各章の始めには、時代の様子をまとめた写真やオリジナルの絵や文化財が提示され、時代の流れを考えることが図られているが、やや工夫が弱いと感じる。帝国書院の 20・21 ページをご覧ください。時代の様子をまとめたオリジナルな絵が提示され、時代の流れを考えることができるよう工夫されている。日本文教出版の 44・45 ページをご覧ください。「とらえよう時代の転換点」として、その時代の特徴を感じ取ることができるよう大きな図版や 3 段階の学習の流れが提案されるなど、歴史の大きな流れを理解しやすくする工夫がなされている。自由社の

28・29 ページをご覧いただきたい。このようなコラムを多く設け歴史の流れをつかむための補完的な役割を果たすよう工夫されているが、大きな流れをつかむという点では工夫が弱いと感じる。育鵬社の 14・15 ページをご覧いただきたい。「歴史絵巻」として、時代を俯瞰して歴史の大きな流れ特色をつかませるよう工夫されている。学び舎の 10・11 ページをご覧いただきたい。写真や資料はあるが、歴史の流れという点では、大観する工夫はされているとは言えない。

次に公民的分野について東京書籍の 70 ページをご覧いただきたい。各章のまとめとして、その単元と関連する内容との共通点や相違点に着目して、説明する言語活動が設けられており、思考・判断した内容を適切に表現するための工夫がなされている。教育出版の 30・31 ページをご覧いただきたい。「言葉で伝えよう」を中心に、「対立と合意」「効率と公正」の概念から、豊富な事例を用いて、言語活動の充実が図られている。清水書院の 36・37 ページをご覧いただきたい。側注に、問いかけを配置し、言語活動を図っているが、他社に比べ工夫は弱いと感じる。帝国書院の 82・83 ページをご覧いただきたい。「トライアル公民」として、ここでは裁判員としてのロールプレイの課題が設定されるなど、多彩な言語活動の工夫がされている。日本文教出版の 58・59 ページをご覧いただきたい。各時間のまとめ・振り返りに加え、「言語活動コーナー」を設け、「読み取ろう・考えよう・伝えよう」として、言語活動を充実させてあり、特に優れた工夫が見られる。自由社の 56 ページをご覧いただきたい。「学習のまとめと発展」として、各章の内容を字数制限でまとめる課題などが設定されているが、他社と比べて工夫は弱いと感じる。育鵬社の 36・37 ページをご覧いただきたい。ここでは「やってみよう」として、プレゼンテーションが設定されているが、他の箇所ではディベートやレポート作成などのスキルを身につける課題が設定されるなど工夫されている。歴史同様、各社で様々に工夫されているが、ご覧いただいたよう展開の工夫や資料など、より効果的な工夫と少し工夫が弱い社に分かれている。

次に、民主主義に関する理解を深める学習の工夫について、東京書籍の 77 ページをご覧いただきたい。上の部分「公民にチャレンジ」で、選挙シミュレーションが提案されるなど工夫されている。教育出版の 102・103 ページをご覧いただきたい。「言葉で伝え合おう」として、裁判員裁判のシュミレーションから、ディベートやプレゼンテーションを取り入れて、民主主義の仕組みについての考えを深める工夫がされている。清水書院の 148・149 ページをご覧いただきたい。勤労者の権利などに関する社会の諸問題を取り上げ、調べ学習や話し合い学習を促している。帝国書院の 96・97 ページをご覧いただきたい。「トライアル公民」として、ここではまちづくりを取り上げて、民主主義を考えさせ、それ以降の学習に生かせるよう配慮されるなど、優れた工夫がなされている。日本文教出版の 72・73 ページをご覧いただきたい。民主主義の意義や意味を考えるとともに、「チャレンジ公民」として、ここではブレインストーミングの手法を用いて、現代社会の諸問題について自ら問題解決する学習を促すよう工夫されている。自由社の 80・81 ページをご覧いただきたい。選挙制度と政治参加について、現状を詳しく説明することで、議会制民主主義や選挙、政治参加について、自ら考える態度を育てるよう工夫されている。育鵬社の 86・87 ページをご覧いただきたい。コラムでリンカーンの演説を紹介するなど、議会制民主主義についての考えを深めさせるよう工夫がされている。単にコラムや説明に留まるか、学習方法の提案などにまで発展させているか、工夫の強弱がみられると考えている。

また、公民教科書は、巻末に憲法や民法、労働基準法などが掲載されているが、その条文が本文のどの部分に関連するのか参照ページが記載されている・いない、また、難しい条文の語句の解説がある・ない、という視点も評価する際の重要なポイントと考えている。

最後に地図について東京書籍の 82 ページをご覧ください。九州地方のテーマ別の資料が提示され、キャラクターの吹き出しを活用して、言語活動の充実が図られている。帝国書院の 88 ページをご覧ください。中国地方ですが、上の方に「やってみよう」として、地図や資料をもとに考察を深める視点が提示されているが、この「やってみよう」が他の地域にも随所に設けられており、言語活動の充実を図るための工夫がなれている。以上で社会科の説明を終わる。

○島本学校指導課長

ここで、国語科および社会科について、質疑応答の時間をとらせていただく。

【秋道委員】社会の公的分野は、地理的・歴史的分野と比べて現代的な用語が多く用いられている。

難しい言葉も入っており、例えばリテラシーのように、高等学校においてもあまり使わないような概念について、用語の説明が入っているものと、入っていないものがある。新聞用語もたくさん出てくることから、学校現場の先生方にとっても生徒に教えることは難しく大変ではないか。

三内丸山遺跡に関して、縄文時代から農耕が始まっていること（農耕の起源）についてはしっかりと説明されているか。数年前に見つかった旧石器時代の遺跡が取り上げられているように、新たな発見があれば内容も変わるため、教科書の評価としては難しい。

【事務局】メディアリテラシーについては、ほとんどの教科書において記載されていないが、関連語句については授業者が補足しながら進める。ただし、用語を説明すること自体が授業となってしまう可能性もあり、状況に応じた対応としている。縄文末期の農耕の起源については定説として、どの教科書においても記載されている。

○石居指導主事【数学科】

2 年生の 3 章「一次関数」の導入部分を比較する。本市においても、課題のある単元の一つである。関数の定義、比例、反比例について 1 年生で学習し、2 年生では $y=ax+b$ で表される一次関数について学ぶ。

東京書籍 P. 54～55 やかんで湯をわかす際の温度の変化について、「電気ポットより先に沸くのか？」という観点から時間と温度という 2 つの数量の関係に注目させ、P. 56～57 x 分後の温度 y °C について、 $y=8x+20$ と表したところから、一次関数を定義していく。解決すべき問題が設定されており、扱う式も平易である。

大日本図書 P. 65 扉で「列車の運行のようすをグラフに表す」と投げかけるが、これは単元導入には活かされない。P. 66～67 で、長方形の紙を折ったときの面積や長さに着目して、比例・反比例以外の関数に目を向けさせる。P. 68～69 で水そうに水を入れる時間と水面の高さの関係から $y=2x+5$ を得て、一次関数を定義していく。ここに至るまでの道筋がやや込み入っている。

学校図書 P. 65 は、1 年生の既習事項のふりかえりが 1 ページにまとめられている。P. 66～67 の扉では「年数にともなう鍾乳石の長さの伸び」を題材に「比例でも反比例でもない関数」に注目させ、P. 68～69 では、この関係を表す式 $y=1/30x+5$ を基に一次関数を定義していく。初めに扱う式に、分数を選択する意義について疑問がある。

教育出版 P. 65 扉でダイアグラムを取り上げているが導入には活かされない。P. 66 は既習事項のふりかえりである。P. 67 Let's Try では導入課題として、時間と水位を取り上げ、P. 68～69 で、こ

こから得られる式 $y=2x+5$ を基に一次関数を定義していく。扉の役割は「興味付け」に限定するという意図か。導入に活かされないのはもったいない。

啓林館別冊 P. 12～13 は振り返りを設定している。続いて、本冊 P. 56～57 で「時間と水面の高さ」を題材として、1年生の「比例」をふりかえり、右ページでは、「すでに 8cm の高さまで水が入った水そう」を扱うことで一般的な一次関数へとつないでいく。ここで「見だし」たことを「話しあう」言語活動が設定されている。P. 58～59 では、扉で扱った関係から導かれる 2 つの式 $y=2x+8$, $y=2x$ を基に一次関数を定義していく。関連づけがわかりやすい。

数研出版 P. 62～63 水そうに水を入れるモデルの導入で、3通りの設定について表を完成させながら、P. 64～65 ではそれらの内の③と共通している別の設定を取り上げて、一次関数を定義していきます。扉で扱った 3通りの関数はすべて一次関数であり、定義につなげていく流れが、ややつかみにくい。

日本文教出版 P. 59 既習事項のふりかえりが設定されている。P. 60～61 では数研出版と同じように 3通りの設定を取り上げる。P. 62～63 では、理由を示すことなく②をとりあげ、問で③を扱い、この 2 つを基に一次関数を定義している。これも、筋道の必然性が見えにくいのが残念である。

以上で数学科の説明を終わる。

○三科指導主事【理科】

東京書籍「新編 新しい科学」3年 P156・157 をご覧いただきたい。東京書籍の特徴は、P157 にあります「学びを活かして考えよう」のように、目的を持った言語活動を教科書の指示に沿ってやっていけば、思考力・表現力を高める指導の充実・改善が図れる点です。ただ、学習して得た知識を活用し、学習を深める課題が、他社と比較して、少ない。

大日本図書「新版 理科の世界」3年 P48・49 をご覧いただきたい。大日本図書の特徴は、P49 にあります「やってみよう」のように、観察・実験を重視している点です。考察する際の着目点が随所に明示されており、(P49 ならば、右の側注のイラストの吹き出しです) 活用する課題も十分に確保されている。

また、前回お示したように、京都に関する記述が他社と比べて非常に多く、P272 の京都市水族館、P307 の青少年科学センターなどの紹介は、生徒にとって身近に感じられるものです。

学校図書「中学校科学」3年 P49 をご覧いただきたい。学校図書の特徴は、P49 の欄外「科学の歴史」のように、コラムの充実している点です。科学的な素養を高めたり、学んだことをさらに深める学習へ導入や、学習内容と職業や日常生活との関連など、豊富です。

教育出版「自然の探究 中学校理科」3年 P83 をご覧いただきたい。教育出版の特徴は、P83 の「考えよう」「活用しよう」のような、課題を数多く掲載し、基礎基本の定着を図っている点である。生徒自らが探究活動を行う観察・実験の例も詳しく紹介している。

新興出版社啓林館「未来へひろがるサイエンス」3年 P173 をご覧いただきたい。啓林館の特徴は、P173 の「考えてみよう」のように、課題を通して考える力、判断する力を重視している点である。また、社会や生活の場で使われている技術や日本が誇るものづくりの技術などや、伝統文化と科学の関係を紹介し、キャリア教育等への配慮が目を引く。そして、別冊マイノートで演習問題の質・量の充実を図っている点も大きな特徴である。以上で理科の説明を終わる。

○島本学校指導課長

ここで、数学科および理科について、質疑応答の時間をとらせていただく。

【星川委員】数学・啓林館の本冊と別冊はどのような関係性か。別冊があることのみで評価するのか。

【事務局】別冊を設けているのは啓林館の特色である。別冊は、新しい単元に入る前の振り返りや、学習途中での確認、学習後の内容を深めるための問いなどが主として構成されている。おおむね同じ章で4ページ割かれており、振り返りで2ページ、深めるためで2ページの構成となっている。自学自習のメッセージも込められていると理解している。評価については、別冊も含めて1冊の教科書として行う。

○福田指導主事【外国語科】

外国語科の状況を、主に次の2点、1つ目「単元で付けたい力を「CAN-DO」の視点から明確に設定しているか」ということと、2つ目「実際のコミュニケーションの場面を設定した「言語活動」があり、かつ「その場で考えながら話す」ように工夫してあるか」ということについて、2年生の教科書で説明する。

東京書籍「NEW HORIZON」。54ページをご覧いただきたい。単元の最初のページ上の部分に単元で付けたい力が「～できる」と明確に示されている。また、114・115ページをご覧いただきたい。好きなもの・ことを紹介するページである。まず、人の好きなもの・ことを「聞く」「読む」活動がある。次に、自分のことをスピーチする原稿作成を、手順に従って行い、次に、その内容を相手に話し、「発表を聞いて質問する」という、「その場で考えながら話す」という活動が工夫されている。場面と活動量の両面において、他の教科書にはない特徴があると言うことができる。

開隆堂「SUNSHINE」。18ページをご覧いただきたい。「～できる」という形ではないが、活動が示してある。また、巻末の「リスト」で、「できるようになること」が見通せるよう工夫されている。106～109ページをご覧いただきたい。107ページで会話例（使える表現）を示し、109ではペアで話す課題を設定し、書く活動で終わるよう構成され、表現力を高めるよう工夫されている。一方、その場で考えて話す（やり取りする）活動が少し弱いように思う。

学校図書「TOTAL」。33ページをご覧いただきたい。「～できる」という提示ではないが、単元の初めに目標が示されている。資料120～123ページをご覧いただきたい。「聞くこと」に始まり、自分の宝物について伝えるスピーチ活動をする設定である。言語活動の充実を図る工夫がなされており、特に、書く活動が豊富である。一方、123ページの下にあるようなやり取りが設定されてはいるが、答えとなる英文が限定的であると言える。

三省堂「NEW CROWN」。23ページをご覧いただきたい。「～できる」という提示ではないが、この単元で学ぶことが4つ示してある。さらに、巻末の「チェックリスト」により、1年間の到達目標と定着内容が振り返りやすいよう構成されている。110・111ページをご覧いただきたい。自分の町を紹介する発表などの表現活動がある。他にも、自分の夢、有名人を紹介するプレゼンテーションができるよう工夫されている。この教科書だけ、京都市のことについては、文中の内容としては取り上げられていない。

教育出版「ONE WORLD」。14ページをご覧いただきたい。単元毎ではありませんが、各パートの目標提示と、巻末の「チェックリスト」により、各学年の目標を確認しながら学習を進めることができるよう工夫されている。102・103ページをご覧いただきたい。聞くことに始まり、得た情報を整理

しながら最終的にポスター発表するという活動で、4 技能をバランス良く向上させながら言語活動が展開できるよう配慮されている。また、教科書の別冊が用意され、復習や家庭学習に活用し定着が図れるよう工夫されている。

光村「COLUMBUS 21」。23 ページをご覧いただきたい。各単元の最初のページに、4 つの到達目標が「～できる」と明記されている。104・105 ページをご覧いただきたい。職場体験の報告をするというコミュニケーション活動の場面設定が具体的かつ明確である。年3回、このような活動があり、最後には、もっと知りたいことについて質問する、良かったことを伝え合うという活動がある。3 年生では、「弁当か給食か」というように、「その場で考えながら話す」活動を行えるよう工夫されている。以上、外国語科からの報告を終わる。

○山岡指導主事【音楽科】

教育出版 2・3 上の 18. 19 ページ「早春賦」をご覧いただきたい。このように歌をイメージする具体的な写真が大きく取り扱われているのが特徴である。曲のタイトルの下には、目標が 2 種類示されている。続いて 1 年 25 ページをご覧いただきたい。吹き出しで「話し合ってみよう」と、言語活動のヒントが書かれている。ソーラン節を歌った後、関連して鑑賞を行う設定である。緑の文字で「拍の現れ方に注意して聴いてみよう」というヒントがあるが、その下の説明には「はっきりとした拍をもたない非拍節的なリズムです」と、本来生徒に気付かせたいことがすでに書かれているのは思考力判断力を育成するには使いにくいと感じる。

教育芸術社 1 年 2. 3 ページ「音楽 MAP」をご覧いただきたい。これは 1 年間で学ぶ内容と楽曲の関連性を示したもので、全体像が非常によくまとめられている。3 ページ下の「学習の窓口」が具体的に各曲にも示され、学習を深めることができる。民謡のページでは、鑑賞を行ったのち 46 ページでソーラン節を歌う。線によって民謡独特の微妙なゆれやコブシを表現している。46 ページ下の吹き出しのヒントによって、言語活動で学習を深めることもできる。そして 48 ページで民謡の音階を使った創作をするというように、系統立てて学習を行うことに関しても非常に優れている。2・3 下の 22 ページをご覧いただきたい。「早春賦」にはピアノ伴奏が掲載されている。このように伴奏が書かれている曲も多くあり、学習を深めたり発展させたりできるようになる。

音楽科（器楽）

教育出版 8 ページをご覧いただきたい。リコーダーについては、中学校で扱うアルトリコーダーに加え、小学校でも使っていたソプラノリコーダーでも演奏することが可能になっている。アルトを使用しない学校でも対応可能である。またページの隅に運指が掲載され、おさえかたがわからない生徒は、すぐに探せるようになっている。22 ページ、ギターである。手元の写真が大きく掲載され、よくわかる。32 ページは箏である。ギターと同様に写真が豊富である。34・35 ページでは、「さくらさくら」の楽譜が五線のものと縦書きのものと両方示されている。その他、三味線など、和楽器のページが豊富で、どの楽器も丁寧に説明がなされている。

教育芸術社 7 ページ、リコーダー。中学校で新たに学習するアルトリコーダーがステップを踏んで学習できるように、小単位ごとに新しく学習する運指がまとめて示されている。レイアウトもシンプルである。続いて 26・27 ページ、箏である。写真がわかりやすく用いられていることに加えて、29 ページのように伝統的な縦書きの楽譜を用いて学習するようになっている。すっきりしたレイアウトで大切なポイントがわかりやすく示されている。（京都市の多くの学校で扱っているアル

トリコーダーと箏の内容が充実しているといえる。) 46 ページからはラテン打楽器が載っている。小学校でも扱った様々な楽器の演奏法が示され、合奏や創作の幅が広がる。以上、音楽科からの報告を終わる。

○島本学校指導課長

ここで、外国語科および音楽科について、質疑応答の時間をとらせていただく。

【高乗委員】外国語科では、CAN-DO リストが大きなトレンドとなっているが、表記の仕方、表現の仕方は、社によって少しニュアンスが異なる部分があるのではないか。生徒から見た時に、CAN-DO リスト自体が学びのガイドのような形になっているか。

【事務局】CAN-DO リストは、そのことを習得したらどのようなことができるようになるかを示すものである。例えば、「Will」の意味や構成がわかることではなくて、そのことが分かれば、週末の予定を尋ねたり、説明したりできる、そのようなことが CAN-DO である。社によっては、言語活動と関連させ、「～しよう」という表現を用いている場合もある。

○内田指導主事【美術科】

美術科では、「意欲的・主体的な学びや鑑賞活動を促し、言語活動の充実を図る大型図版の掲載」「道德教育の推進」について 3 社を比較して説明する。

開隆堂 1P26, 27 このページは原寸大図版を効果的に使い、若冲の升目描き技法の工夫が伝わってくる。ただ、拡大部分の色彩の数が少なく色味も暗く、鑑賞者の興味関心を引くにはやや弱い感じがする。また、「升目描きの技法により、どんな効果があるのか、話し合ってみよう。」と問いかけ言語活動を促しているが、主文に技法の効果についての解説を載せてしまっていることが残念である。開隆堂はこの作品以外にも 2 点が原寸大掲載されている。

開隆堂 2・3P24, 25, 主に 3 年生で扱う自画像のページで、「自分と向き合おう」という極めて道德的な主題の題材である。道德との関連を示す表示はなく、「作者の言葉」も短い解説のようなものにとどまってはいるが、主文の内容で作者の内面に迫るよう啓発している。

光村 2・3P48, 49, 光村も作品こそ違っているが、開隆堂とまったく同じねらいで若冲の「柘目描き」を取り上げており、開隆堂と比べて拡大部分が色鮮やかで美しく、鑑賞者の目を引き、原寸大の醍醐味が存分に感じられることで生徒の意欲的・主体的な学びや鑑賞活動を促す効果がある。また、目標に示された「柘目描きの特徴や効果について話し合おう」や「一つ一つの柘目の描き方は、どのように違っているだろう？」という問いかけによって言語活動を促している。光村はこの作品以外にも 3 点が原寸大掲載され、それぞれが違う分野で拡大するに値する作品が選ばれている。

光村 2・3P26, 27, 光村はページ下にハートマークで道德との関連を示している。また、中学生にも有名な曲の歌詞や震災被災生徒本人とその自画像を掲載し、合わせて「作者の言葉」を取り上げることで共感的理解を促し、自分自身の内面に迫る工夫としている。

日文 2・3 上 P26, 27, 日文はこのページに和紙を使用しており、それを含め原寸大で浮世絵版画を体験させることに主眼があり、他社とはねらいが違っている。原寸大図版は他にも 1 点浮世絵版画を掲載している。また、作品解説が載せてあるが、特に鑑賞活動・言語活動を促すような問いかけは示されていない。

日文 2・3 下 P8, 9, 日文も光村と同じように、クローバーマークで道德との関連を示している。

また、生徒作品には「作者の言葉」を詳しく掲載し、そのうち1点は光村と同じように震災被災生徒を取り上げて心に訴えかけ、自身の内面に迫るよう工夫している。以上、美術科からの報告を終わる。

○上田指導主事【保健体育科】

東京書籍 口絵 9, 基礎的・基本的な知識の習得を図るために学習課題や目標が提示され、導入からまとめまでの学習の流れが順序立てられて、学習が進められるようになっている。「リンク」「他教科」などマークで細かく表示することで、関連を系統的に指導できるように配慮されている。言語活動の充実を図るため健康に対する身近な事例や資料も多く、書籍や新聞に引用された文章を使い、読解力の向上も図るよう配慮されている。

P1 知識の活用、課題解決を身に付ける手立てとして保健学習の方法を取り上げ、学習内容・目標に合わせた適切な方法を選択できるように配慮されている。学習のまとめで「考えてみよう」や章末問題において「活用の問題」を設定し、習得した知識の活用する活動を取り上げている。

大日本図書 P2, 基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得を図るために内容ごとに学習課題や目標が課題文形式で提示され、授業が進められるように工夫されている。各章末には「重要な言葉」「学習の要点」で知識・技能等を確実に習得するための配慮はされているが、確認問題等がない分定着を図るための手立てが弱い。導入時に、わかりやすい発問が設定されており、言語活動の展開につなげやすく配慮されているが、図表などから読み取ってという活動はできない。いくつかの資料において凡例表示や区切り線がないなど少し配慮に欠ける点が見られる。

大修館書店 口絵の最後、基礎的・基本的な知識・技能等の習得を図るために学習の動機づけとなる導入発問やキーワードを設定するなど工夫されているが、学習目標が明示されておらず、他社に比べて弱い部分である。各章末には、「学習のまとめ」があるが、確認問題等がない分定着を図るための手立てが弱い。今日的な課題や新しい健康問題を「コラム」の形で多く取り上げられているが、発展的な内容につながりにくい。小学校・高等学校の継続性については記載がなく、他社に比べて手立てが弱い。

学研教育みらい P6, 基礎的・基本的な知識・技能等の習得を図るために内容ごとに細かく提示され、知識の習得・活用、振り返りまで学習の進め方がわかりやすくなっている。しかし、資料が多く、本文の記載が分かりにくいところもある(P60~61)。また体育と保健の関連、他教科とのつながりについては、同じマークで示されており、東京書籍に比べ、配慮が不足している。健康に対する事例や資料も多く、科学的な理解や思考につながる工夫がされている。「探究しようよ」では、生徒の興味関心を引く話題により発展的な学習につながるよう工夫されている。以上、保健体育科からの報告を終わる。

○島本学校指導課長

ここで、美術科および保健体育科について、質疑応答の時間をとらせていただく。

【在田教育長】道徳との関連については、実際に授業でどのように図られているか。

【事務局】美術では、道徳との関連を示す「道徳マーク」があるが、そのマークのみを用いて授業展開することはない。自画像などの作成を通して、自分と向き合わせるなど、単元の全体を通して関連を図っている。

○松村指導主事【技術・家庭科（技術分野）】

技術分野ならではの言語活動である「製図」と情報を安全に適正に活用するための「情報セキュリティ」について、三社を比較して説明する。

東京書籍をご覧いただきたい。「製図」に関しては 6 ページにわたって掲載されている。44, 45 ページには、指導が必要な 3 つの図法が見開きのページで示されており、難易度の高い製図学習において、3 つの図法を見比べて学習できることは、理解を深める上で優れた構成と言える。さらに、それぞれの図を左から右へと読み進めるレイアウトは、支援の必要な生徒の混乱に対しても配慮がされている。

「情報」に関して、東京書籍の特徴は、生徒が事例からセキュリティやモラルについて考える場面が設定されているということである。206 ページにトラブル例が示されて、生徒が対応を考え、裏面にある 208 ページ以降の解説で、対策を確かめて深める展開となっている。情報モラルに関しても同様で、情報技術のプラス面・マイナス面の両面から生徒が考えて、その後に適切な活用を解説する展開となっている。単に禁止事項を並べるだけでなく、生徒の思考力・判断力を高め、適切な行動に導けるような工夫がなされている。また、デジタル情報の特性の学習後であることも大変効果的と言える。

教育図書では、「製図」は、3 ページしか示されておらず、等角図、キャビネット図、第三角法による正投影図ともに、描き方の手順は示されていない。「情報セキュリティ」も、モラル学習も含めて 3 ページしか示されておらず、両方の内容において、他社に比べて学習教材が不足していると言える。

開隆堂では、「製図」は、5 ページにわたって掲載されている。東京書籍と同様に必要事項はまとめて掲載されているが、42, 43 ページにキャビネット図と等角図、裏面である 44 ページに第三角法による正投影図が掲載されているので、生徒にとっては比較しながら学習をするには少し使いにくいかもしれない。

「情報セキュリティ」は、情報モラルと 2 項目に整理され、情報を安全に活用するための技術について内容はたいへん充実している。また、生徒が身近な問題として捉えやすいよう、言語活動を促す活動も開隆堂の特徴である。しかし、デジタル化した情報の特性、例えば複製しやすいとか劣化しにくいなどの学習がこの学習の後の構成になっているので、指導する順番を指導者が工夫する必要があるかもしれない。以上、技術分野からの報告を終わる。

○堀内指導主事【技術・家庭科（家庭分野）】

家庭分野については前回の教育委員会で、重視した観点のうち調理実習の部分と幼児との触れ合い活動について、教科書の写しをもとにご説明をさせていただいた。本日は、別の視点、衣服の洗濯と、食品の必要量の記載を例に、説明する。

東京書籍 P. 120・121 をご覧いただくと、小学校で学んだ手洗いと中学校で学ぶ洗濯機による洗濯を比較しており、また、基礎技能のページであることがわかるように、背景色や爪見出しが工夫されている。2 枚目 P. 35 では、1 日に必要な食品の分量が写真でわかりやすく示され、次に学ぶ献立の学習を主体的に学べるようになっている。

3 枚目、教育図書 P. 192・193 では、洗濯機を使った洗濯や乾かし方など、小学校での学習を含めて説明している。また、P. 80 では、食品の分類と 1 日の分量をまとめて示している。このようにそれぞれのページの情報量が多く、写真が小さくなったり、写真の上に文字が重なったりして、見に

くいところがある。

5 枚目をご覧いただきたい。開隆堂 P.182・183 は、2 社と比べると図版が少なく、中学校で学ぶ洗濯機洗いの内容が薄い感がある。また、次の P.74 は教育図書と同じく、1 回に食べやすい分量を示しているし、最後の P.80・81 を見ていただくと、東京書籍と同じく、1 日に必要な食品の量を記載している。和食と洋食の両方の例で示して、生徒がイメージしやすい配慮がされているが、必修の内容を「探究」としている点を懸念する。

家庭分野の学習で目指している、日常生活における実践につなげるために、実習例がわかりやすく豊富に記載されていることは大切であると考え。以上で説明を終わる。

○島本学校指導課長

ここで、技術家庭科について、質疑応答の時間をとらせていただく。

【秋道委員】情報セキュリティについて、実際の授業ではパソコンを使いながら学習しているのか。例えば、パスワードに誕生日を用いないなど、教科書の内容は十分なものになっているか。また、USB の容量などについても教えないといけないが、書かれていない。情報化の早い動きに即した学校現場の対応が求められる。

【事務局】生徒のコンピュータの実習においては、毎時間、終了時にデータ保存するが、その際には必ず全てのクラスで自分のパスワードを使っている。技術家庭科だけでなく、他の教科でもパソコンは用いるため、十分に配慮する必要があると認識している。

【秋道委員】家庭科において、1 日の栄養摂取量が書いてあるのはよいが、例えば、今問題になっている食物アレルギーについてはどうか。麦や、牛乳、卵など、学校現場では、京都市のマニュアルを用いてアレルギー対策に取り組まれているが、教科書における記載はどうか。

【事務局】家庭科では、食品にアレルギー表示があるため、食品表示の部分でアレルギーについて学ぶ機会がある。

○島本学校指導課長

以上、中学校の教科書採択にかかる現在の状況をご報告させていただいた。本日のご意見を踏まえ、今後、選定委員会において更に調査を進め、適宜、教育委員会にご報告し、最終的に 7 月下旬頃、選定委員会からの答申を受け、28 年度以降の使用教科書について、ご審議、ご採択をいただく予定である。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

・7 月 8 日 文科省通知

「無戸籍の学齢児童・生徒の就学の徹底及びきめ細やかな支援の充実について」

・7 月 11 日 青少年科学センター 企業特別展の開催（オムロン株式会社）

・7 月 13 日 非行防止教室の視察について

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11時00分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長